

## 『ラフティング』

自然の家の近くを流れる清流「沙流川」の自然に触れながら、川に親しむ活動である。水辺の活動での安全について学ぶとともに、準備・実施・片付けまでを行うことで、コミュニケーションを促進し、集団の力を高める効果が期待される。ガイドが1艇に1人随行する急流下りというよりは、あくまでゴムボートを使用した川下り体験（ラフティング入門編）としての活動である。

【時期】 6月下旬～9月上旬

※ただし、下記に記載してある事柄が1つでもあった場合は中止する。

《中止基準》

ア. ダム放水量が毎秒9トン以上の場合

イ. 大雨、洪水、強風の各警報が発令されている場合及び雷が確認された場合

ウ. 上記以外でも当自然の家所長が危険と判断した場合

(ダム放水量、水深、各注意報発令、雨天など)

【所要時間】 2時間～3時間

※説明開始時間は原則として、午前は9:30～、午後は13:30～。

【対象】 幼児以上

※ボートの定員は、子ども6名まで。大人4～6名（体格等により、調整が必要）

【定員】 80名程度

【準備】

(個人) 濡れても良い靴（危険防止のため、サンダルは不可）、

濡れても良い長袖・長ズボン（服の下に水着を着用すると、さらに

良い）、タオル、着替え、濡れたものを入れる袋、メガネバンド（落下防

止のため）、替えのマスク

(団体) 安全管理のため、団体引率者も川に入って指導を行う。

・ドラム缶シャワー体験を行う場合は薪と着火剤の購入が必要となる。(準備・片付けは、団体引率者が行う)。

\*購入を希望する団体は、事前に教材等購入申込書を提出する。

(自然の家) ゴムボート、パドル、ライフジャケット、ヘルメット、スローバック、

救急セット、毛布、無線機

【指導】 自然の家職員が指導します。団体の引率者は川の中に入って指導の補助と安全管理をお願いします。

【展開例】

1. 濡れても良い服装と靴に着替えてボート庫前に集まる。

(タオル等は着替えの場所に置いておく)

2. 引率者は参加者数、待機者数、指導者数を職員に報告する。

3. 職員による説明・諸注意→ライフジャケット、ヘルメット着用。

4. 事前にグループ分けを行い、川に移動する。ボート、パドルは6人で協力して運ぶ。

5. 職員、引率者は指導ポイントに移動、活動準備を行う。

6. ①班ごとに川下りを行う。②ゴールしたら自分達が乗ったボートをスタートまで運び次のグループと交替する。①、②を繰り返す。

・必要に応じて休憩、保温を行う。

7. 途中でボートを使った活動から、ボディラフティングに切り替えても良い。ただし、ボートを流しながらのボディラフティングは不可。また、水温が低い場合は実施しない。

8. 活動終了後、後片づけをする。

・寒くなる前に川から上がる。

9. 使用した用具は水洗いし所定の場所に返却する。
  - ・ライフジャケット・ヘルメット→PH 裏
  - ・ボート・パドル →車庫前
10. オプションでドラム缶シャワー体験（2台）も可能である。
  - ・薪と着火剤の購入が必要。
  - ・準備から後片付けまで、団体引率者が担当する。
11. 所定の場所で密にならないように着替えをする。

【指導上の留意点】

1. 引率者は必ず事前に下見をし、コース状況、危険箇所、休憩場所を把握する。
2. 川に向かう参加者及び引率者全員が、ライフジャケット・ヘルメットを着用する。また、川に入る（濡れる）ことを前提に、衣類や持ち物を準備する。
3. 自然の家職員と団体引率者は、活動の安全を確保するため、3カ所の指導ポイント（スタート・中間・ゴール地点）で活動を観察する。
4. 活動プログラムは時間に余裕を持って設定する。
5. 着替え場所の密を回避する。
6. あらかじめ4～6人の活動班を編成しておく。
7. ボートの台数が限られているため順番待ちもしくは活動を終了した参加者への安全管理（水遊び・アクアスコープによる水中観察・休憩・体温調整等）については、団体引率者が行う。
8. 荷物の管理も団体引率者が中心となって団体で行う（カラス等による被害に注意する）。
9. 開始時と終了時の人数確認を徹底する。

【参 考】 教科との 関連	◎道 徳	～ 自然の中で過ごすことで自然を大切にしようとする心情を育てる。
	◎理 科	～ 川の侵食・運搬・堆積の様子を観察することができる。
	○保健体育	～ 水辺における安全について理解することができる。

